

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



チョングエのウォーターフォールズ・ホテルで開催された「手術部位感染 (SSI) サーベイランス・ガイドラインおよび標準作業手順書 (SOP) 普及ワークショップ」の参加者 (2025年9月16日)。

ルサカ州保健局、
IPCとSSIのガイドライ
ンを州内に普及

病院マネジメント・
ハンドブック完成
に向け前進：
編集会議で成果

看護リーダー、地域
SSIサーベイランス・
プロトコルを検討

ルサカ州保健局、IPCとSSIのガイドラインを州内に普及

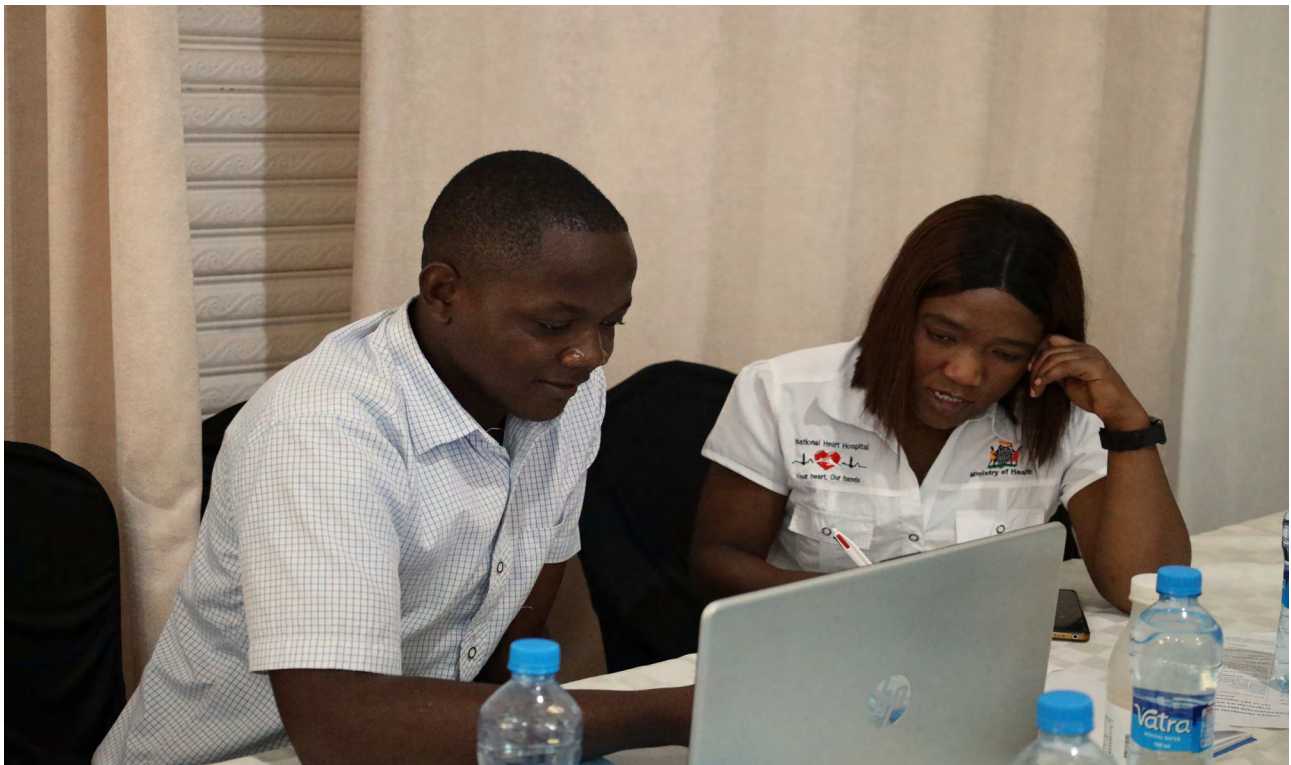
2025年9月16日から19日にかけて、ルサカ州保健局（LPHO）は、所管地域の一次、二次、三次病院に加えてルサカ州外の4つの州の病院を対象に、手術部位感染（SSI）サーベイランス・ガイドラインおよび標準作業手順書（SOPs）、感染予防管理（IPC）の国家戦略（2022-2032）と技術ガイドラインを普及・展開するための会議を開催しました。

これに先駆けて、保健省は、同年8月22日に、SSIサーベイランス・ガイドラインを国家文書としてローンチしました。ローンチに続けて、普及・展開まで行えたことは、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、そしてJICAカシオペア・プロジェクトにとっても、大きな節目となりました。

開会にあたり、ルサカ州保健局のシムルヤマナ・チョオンガ局長は、今回の3

つの国家文書をルサカ州内の政府医療機関や郡保健局にとどまらず、西部州、東部州、南部州、コッパーベルト州へも展開できたことは、州にとって大きな成果であると述べました。さらに同局長は、2021年に始まったカシオペア・プロジェクトが、ルサカ郡の総合病院の運営管理能力を強化することを目的に、ルサカ州保健局とルサカ郡保健局と協力してきたことを振り返りました。特に、2023年3月からチャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロの5つの一次レベル病院で継続されてきたSSIサーベイランスは、感染予防管理と医療の質に関わる貴重なデータを提供し、サービス全体の質向上に大きく貢献していると強調しました。

また、チョオンガ局長は、同ガイドラインをルサカ州保健局とともにドラフトしてきたプロジェクト関係



SSIガイドラインとSOPの普及ワークショップで演習に取り組む参加者。

者の努力に感謝を示し、参加者に対しては「これらの重要な文書を机上のものにせず、現場で積極的に活用し、感染防止と国民の健康改善に直結させてほしい」と呼びかけました。

続いて、ルサカ州保健局のシニア環境保健技術官のキャセル・チボーラ氏は、保健分野で幅広く活動している赤十字社 (Red Cross) の貢献に触れ、今回の4日間の研修および普及会議に参加してくれたことに感謝の言葉を述べました。さらに、カシオペア・プロジェクトがこれまでに実施してきた5つの一次レベル病院でのトレーニングや各種活動、さらには、その前にJICAによって行われたインフラ整備を含む継続的な支援についても感謝を述べました。そのうえで参加者に対しては、学びを止めることなく積極的に活動へ関わり続けるよう奨励し、アクションプランを策定し、10月3日までにルサカ州保健局へ提出するよう求めました。これらのアク

ションプランは、IPCプロトコルのさらなる強化や、医療関連感染 (HAIs) 全般のサーベイランス体制を強化していくための設計図になると説明しました。

赤十字社代表のセラ・カルンボト氏が参加者に向けて発言し、「会議で議論された内容を棚上げするのではなく、現場で具体的に実行に移すことが重要である」と強調しました。そして、「保健省の取り組みが医療従事者の献身的な努力によって実際に現場で実施されている姿を目にできたことは、パートナーとして非常に心強い」と述べました。

プロジェクト・チーフアドバイザーの村井真介氏は、「SSIサーベイランス・ガイドラインとSOPsの普及に際しては、既にそれらを運用しているモデルとなる一次レベル病院が5つあるのが特徴的です。是非、この5つのモデル病院を活用し、普及を進めて欲しい」と述べました。



ルサカ州保健局 (LPHO) のキャセル・チボーラ氏 (主任環境保健技術官: 左) と参加者。

病院マネジメント・ハンドブック完成に向け前進：編集会議で成果

2025年9月24日、ルサカ州保健局は、病院マネジメント・ハンドブックの編集会議を開催しました。

カシオペア・プロジェクトの目標を達成するには、病院マネジメントに関する「病院マネジメント・ハンドブック」の策定は欠かせません。そのため、同プロジェクトはルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、ルサカ郡内の5つの一次レベル病院と協力し、2024年12月20日からハンドブックの草稿を進めてきました。

病院マネジメント・ハンドブックは、病院のビジョンとバリューを達成するために、マネジメントがどのように取り組むべきか指針を示すことを目的としています。病院が、適切に目標を設定し、実施計画を策定し、進捗をモニタリングする仕組みを整えることで、病院は進捗と成果を効果的に把握し、活動を目標に沿って調整することができ、最終的には病院の目標達成につながります。

今回の編集会議には、ルサカ州保健局が編集メンバーとして指名した

ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、一次レベル病院、カフエ総合病院、チェルストン・ミニ病院の担当者が参加し、このハンドブックをザンビア国内の一次・二次病院のマネジメントの基盤となる文書として完成させるべく、編集作業が行われました。

ハンドブックは、ルサカ州保健局のシムリヤマナ・チョオンガ局長の監督の下、完成次第、保健省に提出され、検討され、正式な承認を得る予定です。

編集会議では、同ハンドブックの導入・遵守状況をルサカ州保健局と郡保健局がモニタリングできるように、また病院内の部門責任者や部門長が自己評価できるように、包括的かつ標準化された評価基準を設ける必要があることに合意しました。

ハンドブックはザンビア側の意向で、全国展開を目指して作成しています。内容の適用範囲については、想定していたルサカ州の一次・二次レベル病院を超える展開が予想されており、今後、更に議論されるはずです。



ルサカ州保健局のシムリヤマナ・チョオンガ局長による開会の挨拶。



カシオペア・プロジェクトの村井真介チーフアドバイザーがコメントする様子。

看護リーダー、地域のSSIサーベイランス・プロトコルを検討

2025年9月26日、ルサカ州の看護職員がルサカ州保健局に集まり、第6回州看護リーダー会議が開催されました。

会議の冒頭、ルサカ州保健局のシムルヤマナ・チョオンガ局長は、患者が医療施設で直面している課題に触れつつ、医薬品の適正使用、人員配置、救急車を含む医療機器の整備の重要性を強調しました。政府が調達した救急車は人命救助に大きな役割を果たしており、州への支援や予算も拡大していることに言及しました。そのうえで局長は、「看護の分野には、私たちが持っている資源でまだできることが多く残されています。すべてが完璧に揃う時は来ません。しかし、今はこれまでに最も資源が充実しており、言い訳はできません。まさに今こそ行動を起こす時です」と強く訴えました。さらにチェルストン・ミニ病院が発表した患者満足度調査を高く評価し、患者フィードバックを改善に役立てるとともに、すでに定着している良い取り組みを継続してほしいと呼びかけました。

続いて局長は、「看護師は保健医

療システムの中核チームである」と述べ、看護リーダーに対して部下やボランティア、学生を含むスタッフを適切に監督するよう求めました。

さらに局長は、患者ケアの記録を徹底する必要性に言及し、患者の入浴などの基本的ケアが介助者や付き添い家族に任されている現状を憂慮しました。そのうえで、看護責任者に対し、スタッフや学生をより有効に活用するよう求めました。

また、局長は9月時点で妊産婦と新生児の死亡数が前年に迫る水準に達しており、その多くが避けられる原因によるものであることに深い懸念を示しました。「無駄な遅れをなくするためには、助産師を含むチームとの協力が不可欠です。人々は地域で亡くなっているのではなく、私たちの施設で亡くなっているのです。看護師の皆さんは医師が正しい判断を下せるよう支えることができます。これらの死の多くは避けられる死であり、決して放置してよいものではありません」と訴えました。

この後、カニャマ一次レベル病院



マテロー一次レベル病院のジェーン・ボタ氏(看護部長)が、医療機器チャンピオンの取り組みを紹介する様子。



チェルストン・ミニ病院のアンジェラ・カピラ氏(看護部長)が、患者満足度調査の結果を共有する様子。

の臨床ケア副責任者で公衆衛生専門官代理のイルンガ・ムトゥワレ氏が登壇し、2023年からルサカ郡の一次レベル病院で進められているSSIサーベイランスの背景を説明しました。ムトゥワレ氏は、公衆衛生の立場から、病院における受動的なデータ収集には限界がある可能性を指摘し、その対策の一つとしてコミュニティにおける情報収集を提案しました。

続いて、ルサカ州保健局の主席看護官イヌトゥ・バングエタ氏が、公衆衛生看護師（PHN）が手術を受けた患者を追跡し、創傷治癒のモニタリングや創部ケアの指導を行う新たな取り組みを提案しました。これはルサカ郡内の5つの一次レベル病院で行われているSSIサーベイランスの実践と一致しており、公衆衛生的なアプローチによってSSI症例を漏れなく把握し、発症患者に迅速なケア

を提供することを目的としています。

さらに、チレンジェー次レベル病院の公衆衛生看護師ベルサ・フィリ氏が登壇し、公衆衛生看護しの活動内容と、SSIに関する標準化ツールの策定に向けたアクションポイントを発表しました。このツールには、患者とのコミュニケーションに用いる言葉、創傷洗浄の手順、患者への指導内容、SSI患者のモニタリング方法、さらに施設内のSSIチームへの情報共有の方法が盛り込まれています。

最後にチョオンガ局長は、JICAを通じた継続的な支援に感謝の意を表し、手術部位感染、感染予防管理、質改善の分野で進められているプロジェクトの取り組みを高く評価して会議を締めくくりました。



ルサカ州保健局のイヌトゥ・バングエタ氏（主任看護官）が、挨拶する様子。

PHOTO FOCUS



ルサカ州保健局のゴーサ氏(モニタリング・評価担当)とバロイ氏(企画担当)。



看護リーダー会議で発言するチレンジェ病院のフィリ氏(公衆衛生看護師)。



SSIサーベイランス・ガイドラインの普及ワークショップで発表するカンゴングウェ氏(臨床検査技士)。



看護リーダー会議のアクション・ポイントを読み上げるチレンジェ病院のムベウェ氏(看護部長)。



看護リーダー会議でSSIサーベイランスについて発表するカニヤマ病院のムトゥワレ氏(臨床ケア副責任者)。



SSIガイドラインの普及ワークショップで医療関連感染(HAIs)について発表する大学教育病院のズール氏(看護部長)。



第4回感染予防管理(IPC)ラウンドを行うチレンジェ病院のルンバラ氏とチレシ氏。

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 萩原 悠

編集長: 村井 真介

連絡先

村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)